

シンポジウム 体操競技

「国内メダリストから世界のメダリストへ」

コーディネーター 遠藤幸一（日本大学）

多くのメダリストを輩出している日本体操界ではあるが、これまでメダリストを集めて、その背景について話を聞く機会がなかった。今回、学会大会 20 回を記念し、20 年というサイクルで世界の頂点に立った 2 名の個人総合チャンピオンと現役男子選手（アジア大会日本代表）、そして、女性シンポジストとしてアジア大会メダリスト 1 名を招き、国内でのタイトル獲得から世界でのメダル獲得に関する話を聞く。そしてそこから見えてくるメダリストの条件について考えてみたい。

遠藤 幸雄（64 東京五輪個人総合優勝、当時 27 歳）

具志堅幸司（84 ロサンゼルス五輪個人総合優勝、当時 27 歳）

馬場 亮輔（06 アジア大会日本代表、2001 年インターハイ個人総合優勝）

笹田 弥生（旧姓加納、78 バンコクアジア大会ゆか 3 位、当時 15 歳）

【それぞれのシンポジストに質問する項目】

幼少期（生い立ち、どのような子どもだったのか、体操を始めたきっかけ）

自身の体操に対する感性に大きな影響を与えた人（指導者、ライバル、他国の選手等）

国内個人総合タイトル（獲得したときの感想と理由＝なぜ獲得できたと思うか）

遠藤 幸雄（62 新潟全日本個人総合優勝、当時 25 歳）

具志堅幸司（80 伊勢崎全日本個人総合優勝、当時 24 歳）

馬場 亮輔（01 熊本インターハイ個人総合優勝、当時 17 歳）

笹田 弥生（78 北九州全日本個人総合優勝、当時 15 歳）

初めての国際大会（感想）

当時（今）の自分のセールスポイント（誰にも負けないものは何だったか）

これらの話を踏まえ、フロアからの質問や意見を受け、国際大会に通用するメダリストの資質を考えてみる。

質疑を含めて 120 分